

議事概要

第4回 AP-BON ウェブセミナー

1. 日時：2020年12月10日

15:00-17:00（日本時間）

2. 場所及び参加者

場 所：Webex ミーティングルーム（オンライン）

参加者：9カ国から28名（うち参加者24名、事務局から4名）

司会者：Dr. Sheila Vergara

(ASEAN Centre for Biodiversity, Philippines)

3. アジェンダ

オープニングセッション：APBON 事務局（環境省生物多様性センター・齋藤氏）

- ・各参加者が本セミナーに参加したことを歓迎
- ・会議の際の注意事項及びアジェンダの提示
- ・司会者の紹介

発表1：Mr. Tze Leong Yao (Forest Research Institute Malaysia)

“The origin of mangosteen: review and outlook”

質疑応答

質問：発表資料の10頁にある染色体数が56から130の範囲で非常に変動することだが、そのような数え方だと、染色体数が2nで48、4nで96であるということであり、全ての染色体数が正しく反映されているかについては判断するのが困難である。これらの染色体数を正しく数えるために判断する良い方法はあるか。

回答：はい、この研究では染色体数に基づく多くの理論や細胞学的研究がたくさんあり、これがなぜ提案された将来の研究が、以前の細胞学的結果に依存する代わりに、SSRおよびSNP技術を適用する理由とも言える。

質問：マンゴスチンは野生で見かけることがないと言及したが、倍数性を通じて、植物は場合によってより多くなり、競争力も高まり、野生での生存に強くなる傾向があるが、マンゴスチンはそうではない。それについて、マンゴスチンが野生で生き残れない理由をご教示頂きたい。

回答： マンゴスチンが野生で生き残れない理由、は根系の栽培マンゴスチンの弱さである。H.N. Ridley (1855 - 1956) がこの地域でまだ活動していた 1920 年代にさかのぼれば、彼は栽培マンゴスチンの根幹の系統として *Garcinia hombroniana* を使用することを提案した。栽培マンゴスチンの苗の根系は非常に弱く、苗は長期の干ばつに耐えられないため、苗の生存は水やりに大きく依存している。これは、栽培されたマンゴスチンが野生で見つからない理由の説明になるかもしれない。Pasoh ([Pasoh | ForestGEO \(si.edu\)](http://Pasoh | ForestGEO (si.edu))) での他の観察をしては、倍数体と見なされる *Garcinia* 種が Pasoh50ヘクタール区画の一時的な浸水地域で発見されていることである。

質問： 前の質問について、植物標本を使用して倍数性レベルを決定するための技術を説明する参考文献を下記の通り紹介する。標本から倍数性を推定するためのターゲットキャプチャベースの方法である。(Virual et al. 2017 A Target Capture-Based Method to Estimate Ploidy From Herbarium Specimens.)

<https://www.frontiersin.org/articles/10.3389/fpls.2019.00937/full?report=reader>

この方法はまだ進行中だが、将来は広く使用されることが予測される。私と杉山氏は、私たちのプロトコルを使って同様の方法を開発することを検討している。

回答： はい、もちろんである。情報の共有ありがとうございます。教授からフローサイトメトリー法の使用を勧められた。それは彼のパリでの知り合いによると、直近に乾燥した材料の倍数性レベルは、フローサイトメトリー法を使用して分析することができるということである。

発表 2 : Dr. Takashi Hosono (Japan Agency for Marine-Earth Science and Technology)
“Collecting and sharing framework of marine biodiversity data in the North-Western Pacific region”

質問： 日本の OBIS ノードは日本だけでデータを収集しているか。それとも、アジアの他の国からのデータも受け入れているのか。

回答： 多くの国からの観察を歓迎するが、ASEAN ノード、マレーシアノード、インドネシアノードも活動しているため、自国のノードに連絡することをお勧めする。また、情報を共有し、データ管理を観察する方法について話し合うことができるネットワークがあるため、まず各国のノードに連絡してから、OBIS ノードにお問い合わせいただくことをお勧めする。

(細野氏プレゼンテーションの参照 URL :

http://www.godac.jamstec.go.jp/j-obis/e/img/jobis_video_en.mp4)

ディスカッションセッション

・ APBON 会議に関するお知らせ

- 第 5 回 APBON ウェブセミナー (2021 年 1 月 21 日)
- 第 12 回 APBON ワークショップ (2021 年 1 月 22 日)
- 第 6 回 APBON ウェブセミナー (2021 年 2 月 25 日)
- 第 13 回 AOGEO シンポジウム (2021 年 3 月 3 日~5 日)

-第 12 回 APBON ワークショップの議題案が共有されたが、まだ不十分であるため、執行委員会では本ワークショップの議題について、引き続き取り組む予定である。議題は更新・決定され次第、すべてのメンバーに共有する予定。

クロージングセッション：APBON 事務局

事務局から、以下のアナウンスがあった。

- ・ 第 5 回および第 6 回 APBON ウェブセミナーの日程と講演者は既に下記の通り決まっている。
 - 第 5 回 APBON ウェブセミナー (2021 年 1 月 21 日)
(発表者：BunthangTouch、ChheangDany)
 - 第 6 回 APBON ウェブセミナー (2021 年 2 月 25 日)
(発表者：Eun-Shik Kim、三浦氏)
- ・ 第 5 回、第 6 回セミナーの MC はどなたでも大歓迎。
- ・ まだ APBON メーリングリストに入っていないが、APBON 会議及びコミュニティの関心のお持ちの方は APBON 事務局にメールアドレスを知らせることで、活動に関する様々な情報を受け取ることができるので、連絡お待ちしております。
- ・ 第 5 回 APBON ウェブセミナーの議題は、決まり次第事務局から通知する。

集合写真

